

熊本で電子向け薬剤増産

化学品専門商社の森下産業の子会社で、電子材料や半導体製造時のフォトリソグラフィ工程で使用される薬剤の受託生産を手掛けるタチバナ化成（本社・東京都千代田区）は今年春、熊本事業所（熊本市南区）に第2工場を立ち上げた。生産能力を6割増強するとともに、従来の水系製品に加え、溶剤系製品を生産する。「現在は試作段階にあり、2015年にも本格操業に入る」（森下陽一郎社長）方針。

同社は1976年に森下産業の運輸倉庫部門を分社化するかたちで「タチバナ運輸倉庫」として発足した。94年に製造業へ業容を転換するとと

もに現社名に改称。98年には熊本県の城南工業団地に入居企業第1号として熊本事業所を設立した。

熊本の潤沢で清澄な地下水資源を活用できることが強みの1つ。地上2階建てで事務所棟を兼ねる第1工場では地下水を精製した超純水と数種類の薬液をタンクに投入して攪拌、ろ過することにより半導体の製造に使われる現像液やリンス液、フォトレジスト周辺の機能性薬液などを生産する。生産能力は月間300ト。

コンタミネーションを防ぐため製品ごとに生産ラインを専用化するなど、品質管理も徹底し



タチバナ化成

ている。充填作業は0.1立方メートルの気中微粒子を10個未満で管理するクリーンルームで行う。

新工場は平屋建てで、延べ床面積は1222平方メートル。拡張した約5810平方メートルの敷地内に13年秋に着工、14年4月に竣工した。検査設備として、pptオーダーの検査が可能なICP-MSの最新機種を県内の民間企業で初めて導入し、顧客要求に応じた品質検査体制のさらなる充実を図る。引き続き電子材料分野のニーズにきめ細かく対応しながら新規分野にもアプローチしていく考え。



森下陽一郎
社長